

令和3年度地域ケア推進会議 について

令和3年11月4日
柏市地域包括支援課

本日説明する内容

1. 令和2年度地域ケア推進会議での提言から政策形成に関する取り組み(報告)
2. 令和3年度地域ケア推進会議
 - (1) 令和2年度地域ケア会議の実施状況(報告)
 - (2) 見守り体制に関する課題整理
 - (3) ご助言をいただきたい事項

柏市における地域ケア会議の体系

個別課題
解決機能

ネットワーク構築
機能

地域づくり・資源
開発機能

政策形成
機能

【地域ケア個別会議】

- 地域包括支援センター主催
- 参加者：
本人, 家族, 介護支援専門員, 医療・介護の支援者, 民生委員, 支えあい推進員等地域関係者, その他関係機関
- 助言者：
医師, 歯科医師, 薬剤師, 看護師, リハビリ職, 司法書士, 弁護士等

【介護予防個別会議】

- 市主催
- 要支援1・2等のケアプランの検証, 自立支援重度化防止
- 参加者：
担当ケアマネジャー, サービス提供事業者, 地域包括支援センター職員
- 助言者：
薬剤師, 歯科衛生士, リハビリ職, 管理栄養士等

地域課題の把握

【地域ケア推進圏域会議】

- 地域包括支援センター主催
- 参加者：
民生委員, 支えあい推進員等地域関係者, 介護関係者(ケアマネジャー, サービス事業者等) 医療関係者(医師, 看護師, リハビリ職等), その他関係機関(警察署, 消防局, 社会福祉協議会, 消費生活センター等必要に応じて)

【地域ケア推進会議】

※「地域包括支援センター運営協議会」に位置づけ

- 市主催
- 参加者：
運営協議会委員

計画策定等, 施策への反映

1. 令和2年度地域ケア推進会議での 提言から政策形成に関する取り組み (報告)

令和2年度地域ケア推進会議での提言内容

<検討課題> ※令和元年度の課題抽出より

- ▶定期的な開催ができ、本人のニーズに合った通いの場が少ない
- ▶介護保険サービス卒業後でも通え、運動ができる場所がない
- ▶見守りの必要性は高いが、地域同士の声かけ・見守りができる環境・仕組みがない
- ▶安価で利用できる交通手段がない

<提言内容>

レベル	項目	把握している地域の実情と課題	居場所や見守りへの提案
市域	移動手段	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサロン・医療機関等身近な場所までの交通手段がない ・バス停が家から遠い ・タクシーの利用料が高い ・移動が困難になると医療機関から離れてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業バスを地域の高齢者も利用できる制度 ・送迎付きの市民活動の場や学習の場の提供 ・商業施設や地域のコンビニと連携した送迎の取り組み
	介護保険サービス卒業に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅での入浴は難しいが、入浴施設には行く高齢者がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴施設に通いやすいような移動手段 ・介護保険卒業後の民間ジムへの入会金補助制度
	感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を具体的にどのようにしたらよいか分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職や市職員が実際のサロン会場へ感染予防対策の指導に出向く
日常生活圏	住民同士のネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員活動が知られていない ・震災をきっかけとして、防災の観点からマンションで救援隊を結成し、毎年訓練を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や町会と民生委員の意見交換会 ・マンション単位でのみまもり組織の結成
	介護保険サービス卒業に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・たすけあいサービスでも生活できそうなかたでも、関係者から勧められ、介護保険の申請にいたる 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス申請前の地域包括支援センターへの相談経路の確保
	薬剤師との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局以外で患者と関わる機会がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民から相談がある場合のケアマネジャーや民生委員からの薬局への声かけ ・自宅に薬を配達する等のサービスの活用

会議後の取り組み① 薬局の一覧について

- R3. 2月頃 柏市薬剤師会所属薬局へ相談対応やインフォーマルサービスに関するアンケート実施
- R3. 4月～ アンケート結果から薬剤師会協力のもと薬局一覧の作成
- R3. 7月～ 地域包括支援センターや柏市介護支援専門員協議会へ一覧の配布



柏市内の介護関係者等からの相談を実施している薬局一覧

- 相談は営業時間内をお願いします。薬局により対応が異なりますので、事前に御連絡ください。
- 下記の情報は、介護関係者等のかたへのみ提供しておりますので、取り扱いに御留意ください。

※ 取り扱い注意

令和3年7月
柏市地域包括支援課作成

地区	No	薬局名	郵便番号	住所	電話番号	相談方法	地区	No	薬局名	郵便番号	住所	電話番号	相談方法
北地区	1	ヤックスドラッグ北柏薬局	277-0004	柏市柏下 158	04-7197-5570	電話・来局	西地区	28	かしわ鈴薬局	277-0843	柏市明原 3-3-12	04-7190-5581	電話 ※来局の患者対応状況による
	2	あさひ薬局	277-0004	柏市柏下 276-5	04-7160-1011	電話・来局		29	豊四季ファーマシー	277-0845	柏市豊四季台 1-3-1	04-7144-1095	電話・来局
	3	オレンジ薬局	277-0004	柏市柏下 278-1	04-7165-1650	電話・来局		30	薬局マツモトキヨシ柏旭町店	277-0852	柏市旭町 4-6-2	04-7141-8585	電話・来局
	4	調剤薬局マツモトキヨシ柏たなか店	277-0803	柏市小青田 1-2-3	04-7137-2003	電話・FAX・来局 ※事前連絡あるとよい		31	イオン薬局柏店	277-0854	柏市豊町 2-5-25	04-7142-0190	電話・来局
	5	ヤックスドラッグ柏たなか薬局	277-0803	柏市小青田 5-1-1	04-7193-8391	電話・来局		32	城南柏松戸薬局	277-0855	柏市南柏 1-2-2	04-7144-2380	電話・来局
	6	みやこ薬局	277-0825	柏市布施 814-66	04-7134-5657	電話・来局		33	杉浦薬局	277-0855	柏市南柏 1-6-5	04-7145-0135	電話・来局
	7	サンドラッグ柏松葉町薬局	277-0827	柏市松葉町 2-15-1	04-7132-1470	電話・来局 ※利用患者に関する相談かつケアマネジャーのみ可		34	たかはし薬局	277-0861	柏市高田 139-2	04-7142-2151	電話・来局等
							35	みずき薬局豊四季店	277-0862	柏市篠籠田 977-6	04-7141-0070	電話・来局 ※事前連絡あるとよい	
							36	薬局おおたかの森	277-0863	柏市豊四季 114-12	04-7107-0001	電話・来局・メール・FAX等	

柏市内の医療保険・介護保険以外のサービスを実施している薬局一覧

薬局によりサービス内容が異なりますので、詳しくは薬局へお問い合わせください。

令和3年7月
柏市地域包括支援課作成

地区	No	薬局名	郵便番号	住所	電話番号	サービス内容	対象	利用方法	費用
北地区	1	オレンジ薬局	277-0004	柏市柏下 278-1	04-7165-1650	衛生用品の販売（お取り寄せ可、希望に応じて着払いで郵送可） 一般用医薬品・衛生用品の販売・取り寄せ 認知症サポーター養成講座の開催	どなたでも	電話・来局時	お問い合わせ
	2	調剤薬局マツモトキヨシ柏たなか店	277-0803	柏市小青田 1-2-3	04-7137-2003	熱中症対策アドバイザーによる熱中症対策講座	どなたでも	電話・来局時	開催自体は無料 ※出張の場合、会場費用は要相談
	3	日本調剤 柏の薬局	277-0871	柏市若柴 227-6	04-7137-0451	処方薬の郵送	処方方を依頼された方	来局時	500円
	4	ハーブランド薬局	277-0005	柏市柏 1-1-7	04-7163-2532	健康増進事業（あ・し・たクラブ） 管理栄養士による栄養相談 管理栄養士による栄養分析、トレーニング等のサポート 薬等の説明会、講座 簡易血液検査（HbA1c・コレステロール値測定） 委託契約している雑事代行サービスの紹介 補聴器とりつぎ 健康増進事業（あ・し・たクラブ）	どなたでも	電話・来局時 電話・来局時 電話・来局時 電話・来局時 来局時 電話・来局時 来局時	無料 無料 有料 無料 1100円 お問い合わせ 相談無料 無料

フレイル予防ポイント制度とは…
市の指定する健康づくりやフレイル予防
などの活動への参加や、ボランティア活
動をすることでポイントが貯まる「かしわ
フレイル予防ポイントカード(WAON
カード)」を発行しています。



民間企業や公共施設との連携強化

- ポイント付与対象施設の拡大(R3. 4月～)
スポーツジムやテニス場等の民間企業の登録
- ポイントカード発行場所の拡大(R3. 7月～)
市内近隣センター(A館)を含む25か所 ○○○

ゆくゆくはポイント
付与もできるよう
に…

会議後の取り組み③ 移動販売の開始

R3.2月～ 移動販売について関係課と協議

6.14 スーパーマーケット等の商業施設が近隣に無い、買い物が不便な地域への支援と、見守り活動を推進するため、株式会社カスミと「地域の買い物支援と地域の見守りに関する協定」を締結

7月～9月 販売元や場所について一定の条件をもとに検討

10/4 株式会社カスミによる「移動スーパー」の開始

1. 販売場所

北部地域の介護福祉施設・都市公園等の41か所
月曜～金曜日で各日9～10か所を巡回

2. 拠点店舗

フードマーケットカスミ 柏たなか駅前店

3. 販売商品

野菜・お魚・お肉などの生鮮食品、豆腐・牛乳・パンなどの日配品、調味料・菓子などの加工食品、おにぎり・弁当、日用品など(合計約650品目)

4. 連携課

保健福祉部 高齢者支援課・地域包括支援課 / 地域づくり推進部 地域支援課
経済産業部 商工振興課 / 都市部 住環境再生課 / 土木部 交通政策課



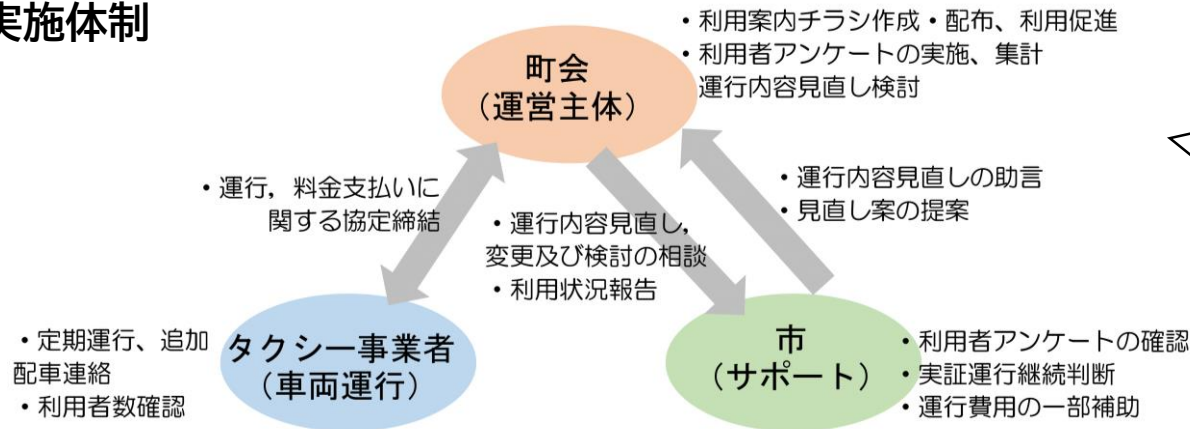
※車両イメージ

会議後の取り組み④ 買い物支援タクシー「とねっこタクシー」実証実験

令和2年度 公共交通空白不便地域対応として先行して抽出した町会へのアンケートを実施し、結果を基にヒアリングを開始

令和3年2月～ モデル地域として、利根町会とのヒアリング実施
アンケート結果とヒアリング結果から交通についての検討を開始

1. 実施体制



2. 運行コース・日程

利根町会内の集合場所→ 商業施設(モラージュ柏またはマミーマーケット柏根戸店)→ 各個人宅
週1回(火曜日)に隔週で運行

3. 利用料金・利用対象者

利用料金:1往復500円/人 ※利用対象者は町会員以外も含む

4. 実証実験期間等

1年間毎に継続判断検証(最長3年間の運行) 継続判断基準:月間利用者数9人以上

5. 担当部署

土木部 交通政策課

2. 令和3年度地域ケア推進会議

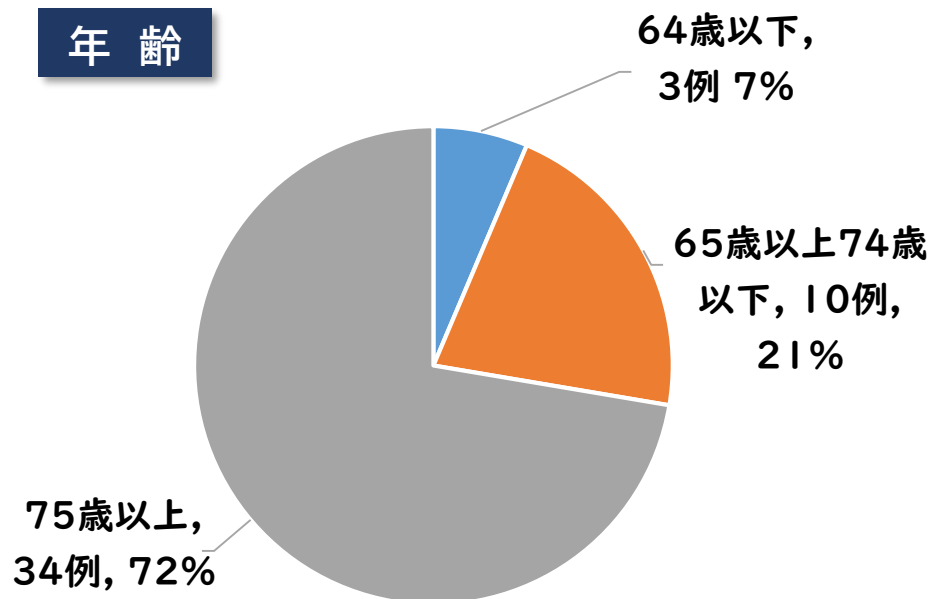
(1) 令和2年度地域ケア会議の実施状況 (報告)

令和2年度の実施状況

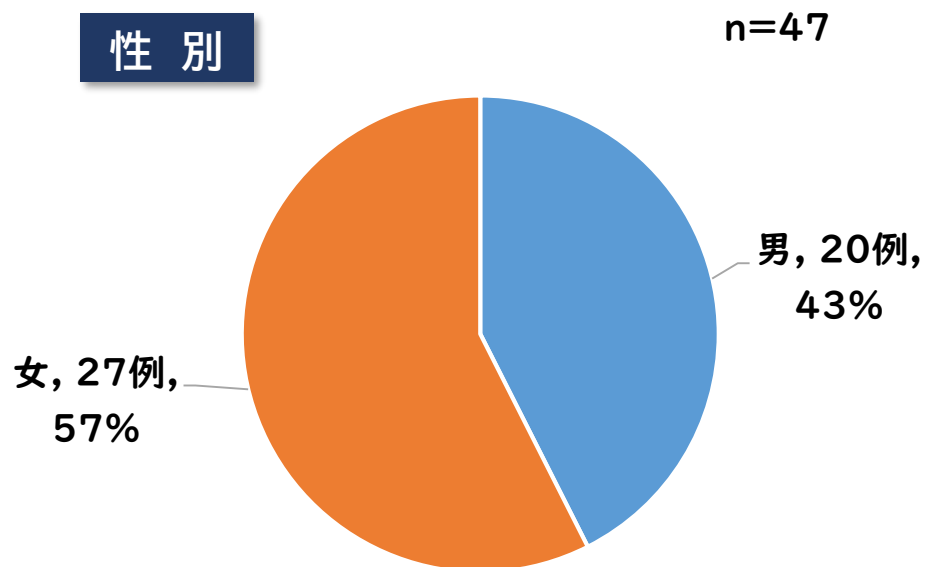
			実施回数	検討事例数	延べ参加者数
個別事例の検討	地域ケア個別会議	地域ケア個別会議 (地域包括支援センター主催)	47回	47件	411人
		介護予防個別会議 (柏市主催)	16回	32件	260人
地域課題解決の検討	地域ケア推進会議	地域ケア推進圏域会議 (地域包括支援センター主催)	11回		213人
		地域ケア推進会議 (柏市主催)	1回		25人

地域ケア個別会議の対象事例の状況(年齢・性別・世帯・介護保険認定)

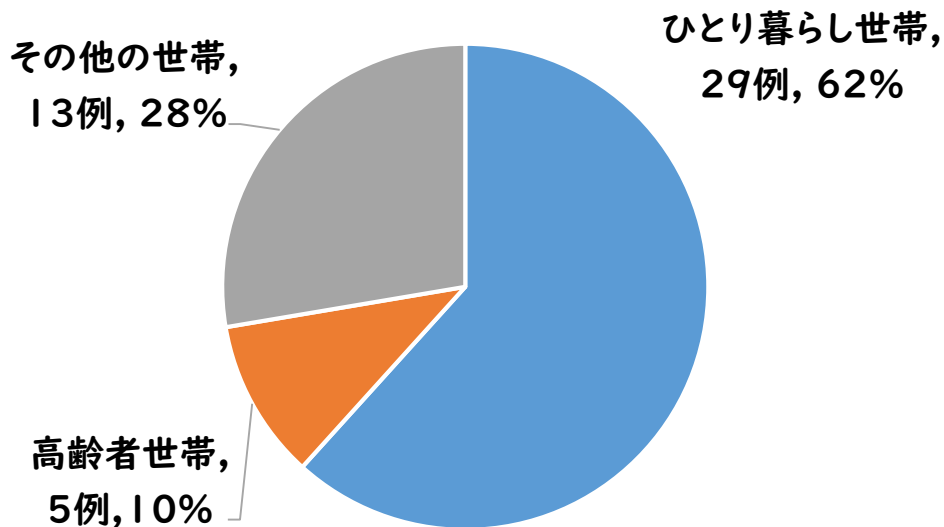
年齢



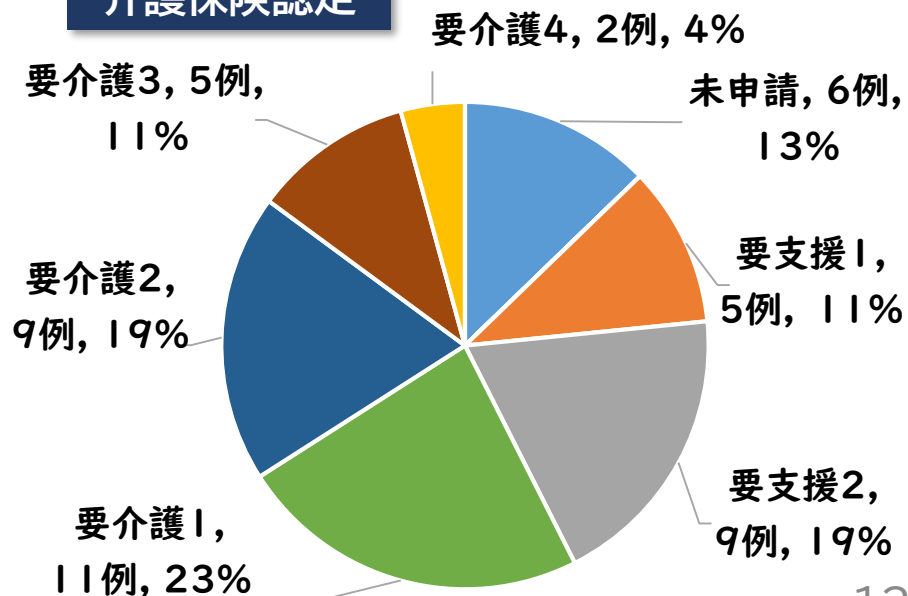
性別



世帯

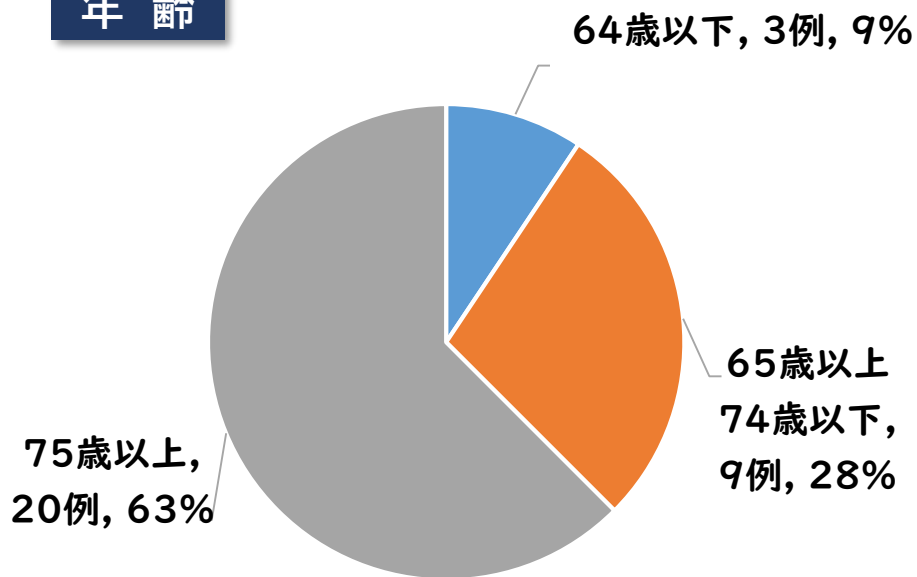


介護保険認定

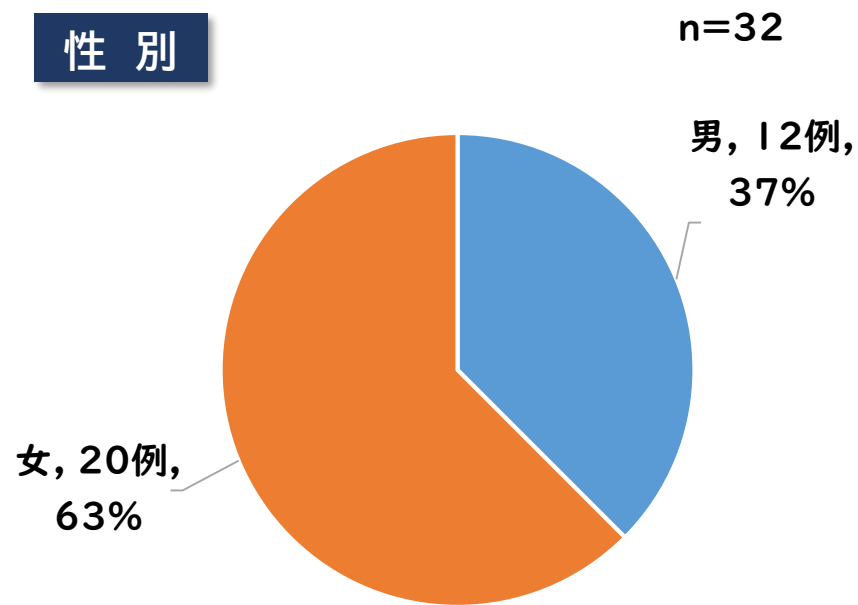


介護予防個別会議の対象事例の状況(年齢・性別・世帯・介護保険認定)

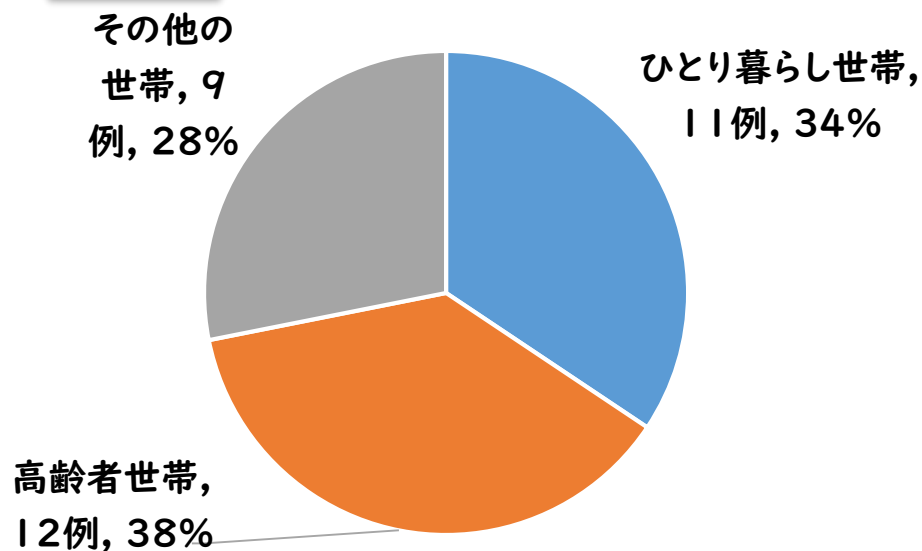
年齢



性別



世帯

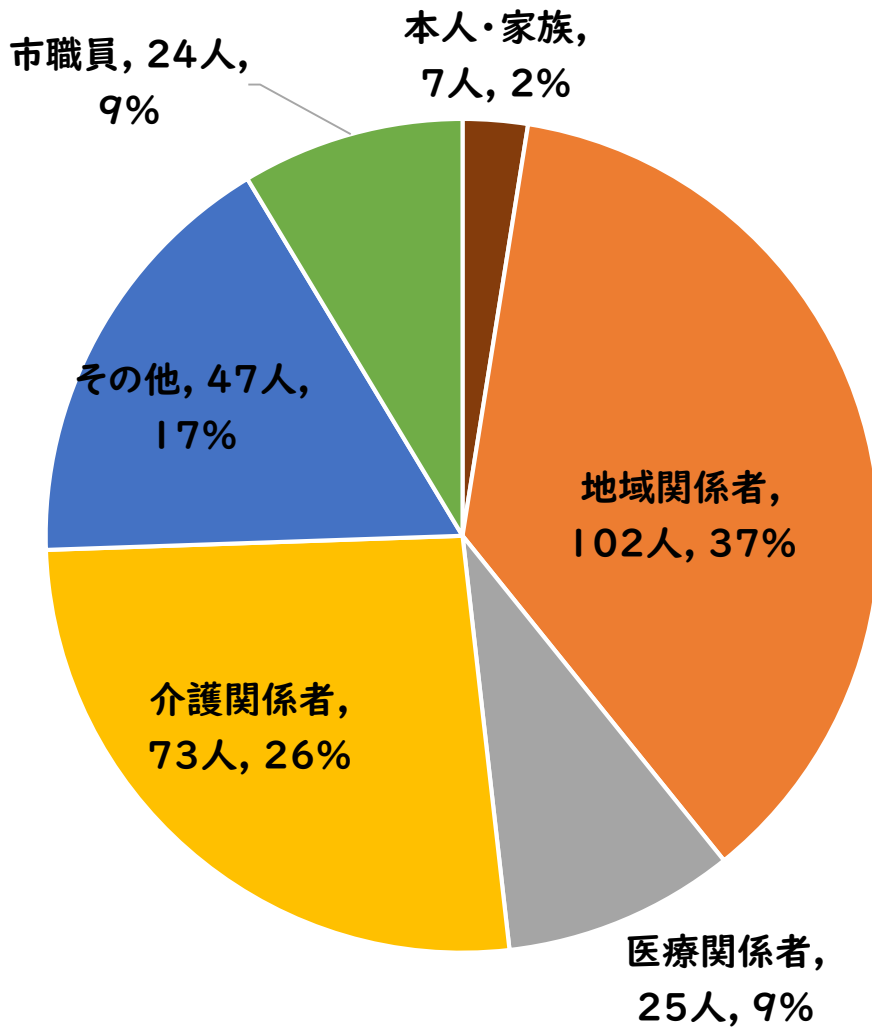


介護保険認定

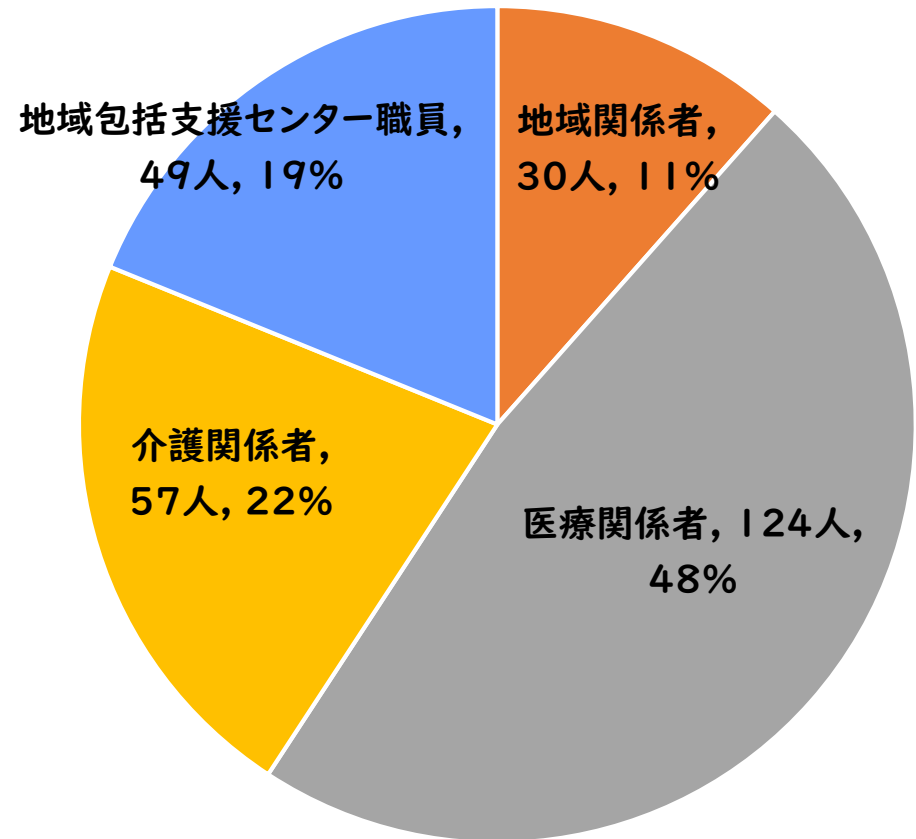


地域ケア個別会議・介護予防個別会議の参加者

地域ケア個別会議

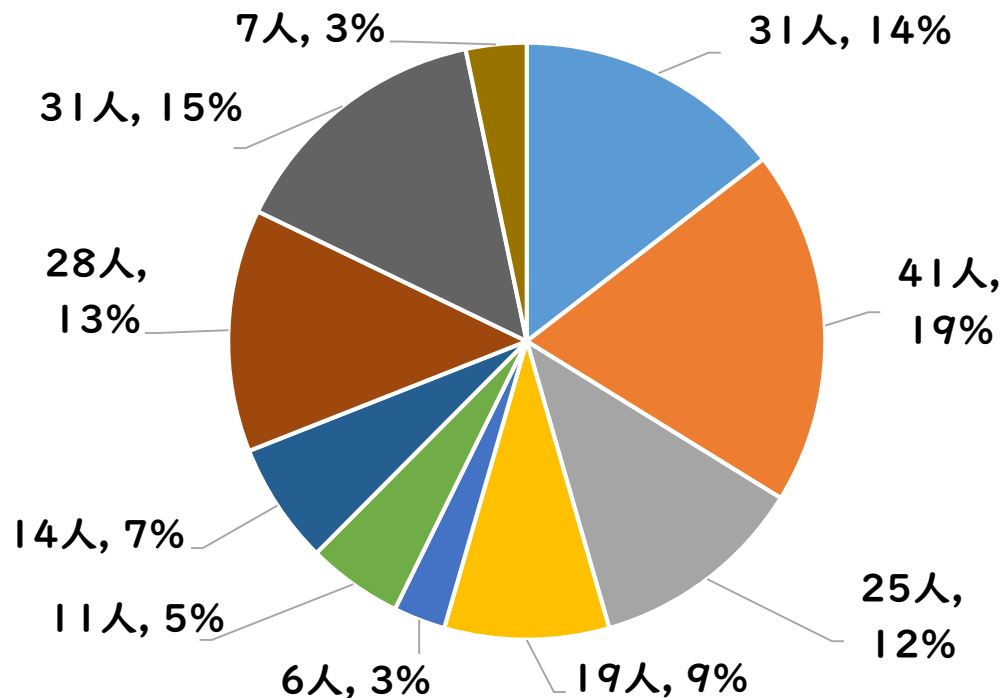


介護予防個別会議



地域ケア推進圏域会議の状況(テーマ・参加者)

包括	テーマ
柏北部	～住み継がれる街を目指して～柏ビレジの課題解決を検討する
柏北部第2	地域共生の仕組みを地域とともに考える
北柏	生活に根ざした活動の延長線上で、閉じこもりの方の支援を目的とする仕組みを考える
北柏第2	人との繋がり方について～幸福感が持てる地域に～
柏西口	ストップフレイル！～閉じこもりを解消するには～
柏西口第2	未実施
柏東口	認知症に関心を持ってもらい、地域に認知症やその家族に対する理解者を増やす
柏東口第2	支援が必要な方を早期に発見するための見守り体制づくり
光ヶ丘	一人暮らしの認知症の方々を地域で見守り、サポートしていくには？
柏南部	地域における認知症当事者やご家族の見守りについて考える
柏南部第2	ゴミ出し困難にならない地域を作る
沼南	沼南地域におけるオーラルフレイル予防の推進について



- 民生委員
- 自治会町会地域住民等
- ふるさと協議会・地区社協等
- 支えあい推進員・たすけあい団体等
- 民間事業者
- 医療関係者
- 介護関係者
- その他
- センター職員
- 市職員

検討された課題

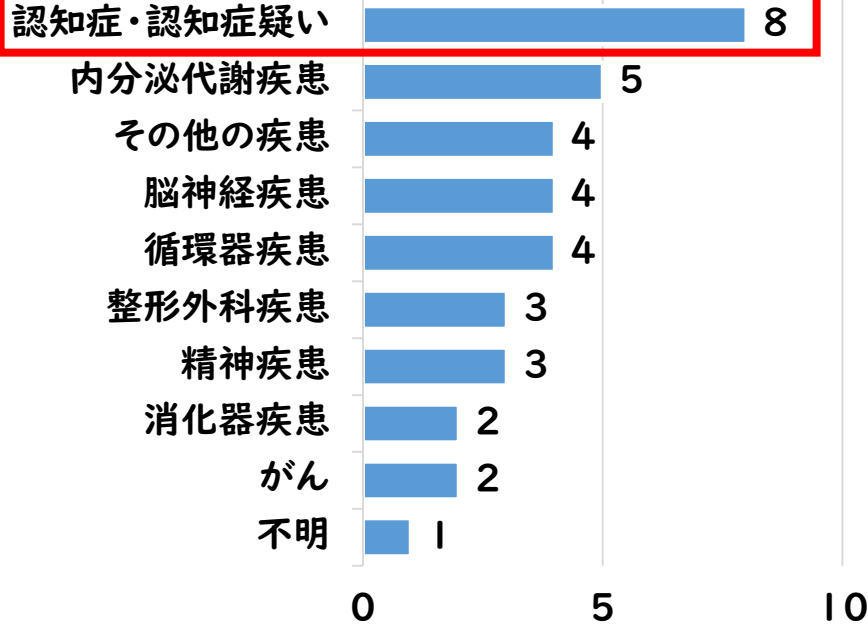
地域課題	個別会議 (地域ケア・介護予防)	推進圏域会議
見守り体制	13	4
地域資源の不足	10	2
関係者間の連携不足	8	
地域との関係づくり	3	3
移動手段	6	
地域の認知症に関する理解不足	4	1
家族の介護負担	5	
金銭管理・書類の手続き	4	
キーパーソンの不在	3	
ゴミだし・分別困難	2	1
意思決定支援	2	
閉じこもり・意欲低下	2	
緊急時や災害時の連絡・支援体制	2	
栄養	2	

その他:家族の介護力や健康問題, 支援拒否, 経済的困窮, ペットに関する問題, 制度の活用や相談先の周知, 道路環境の問題, フレイル, コロナウイルス感染症対策

(2) 見守り体制に関する課題整理

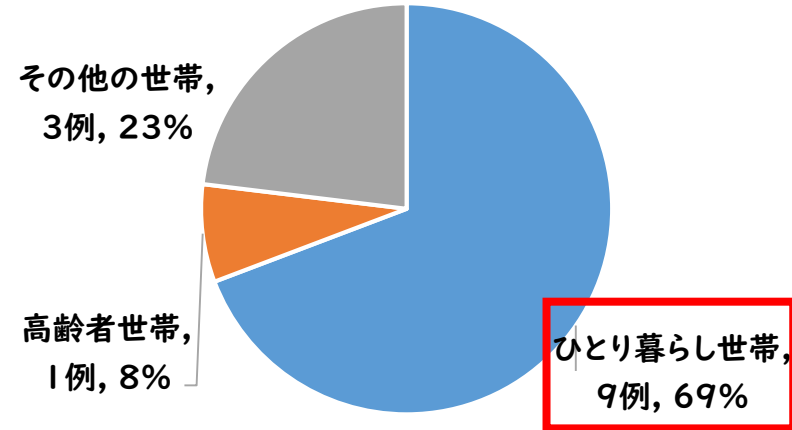
個別会議で見守り体制に関する課題を検討した事例について

疾患(複数罹患あり)

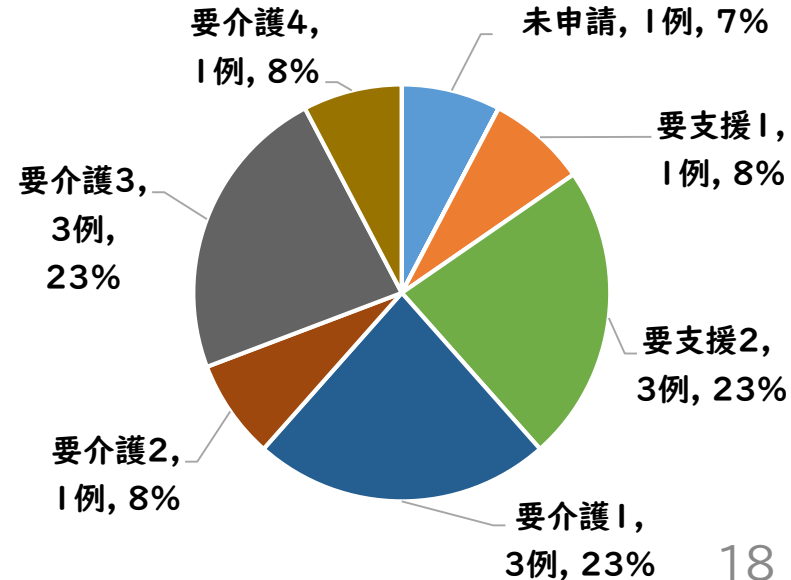


世帯

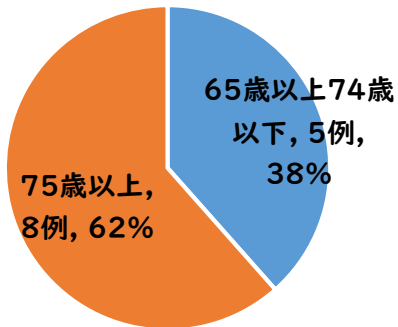
n=13



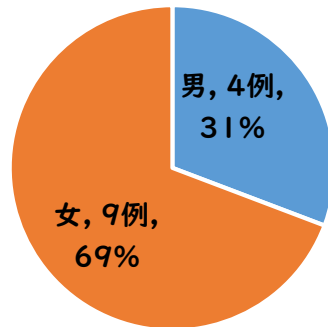
介護認定



年齢



性別



個別会議での見守り体制に関する課題の検討内容

課題

- 公的なサービスや制度利用までは必要ないが、見守りが必要なかたがいる
- 認知症などにより判断能力の低下したかたや、はいかひのあるかたへの地域の見守り体制が不十分
- 地域との関わりが少ないかたへの声かけや、見守りの体制がつくりにくい

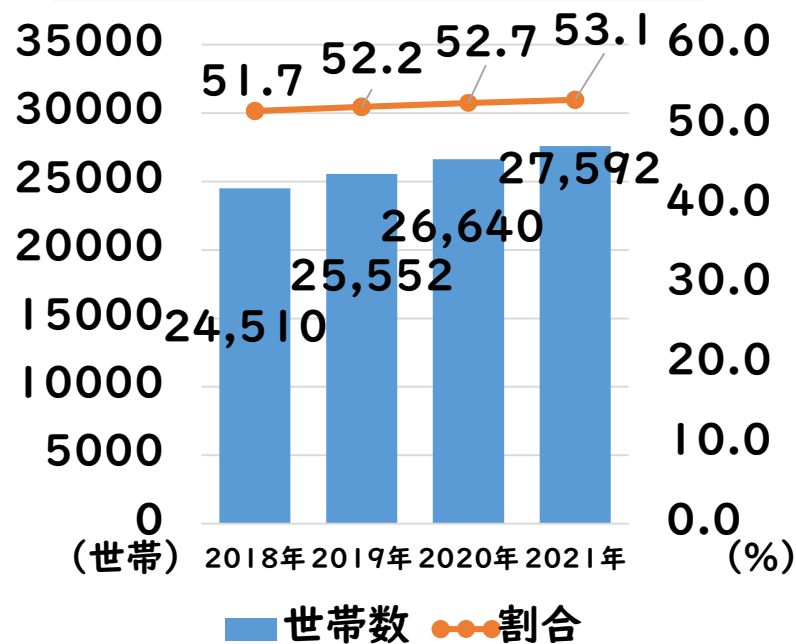


原因・課題解決促進要因

- 町会の見守りパトロールがコロナ禍のため中断されており、町会内の個別の状況が把握しにくい
- 親族・家族が通える範囲内においてもかかわりや支援がない(介入拒否)
- 介護保険など公的援助だけでなく、**地域のインフォーマルな社会資源と協力連携して見守る体制**
- 監視にならないような見守りや個人情報への配慮、**ケアマネジャーと民生委員等の顔の見える関係が必要**
- コンビニに買い物に行くかたが多く、**店舗のかたからの声かけがあるとよい**
- 社会福祉協議会事業「**お元気コール**」のようなものが、市域全体にあると見守りの幅が広がる
- **認知症の方の夕食の見守り支援があるとよい**

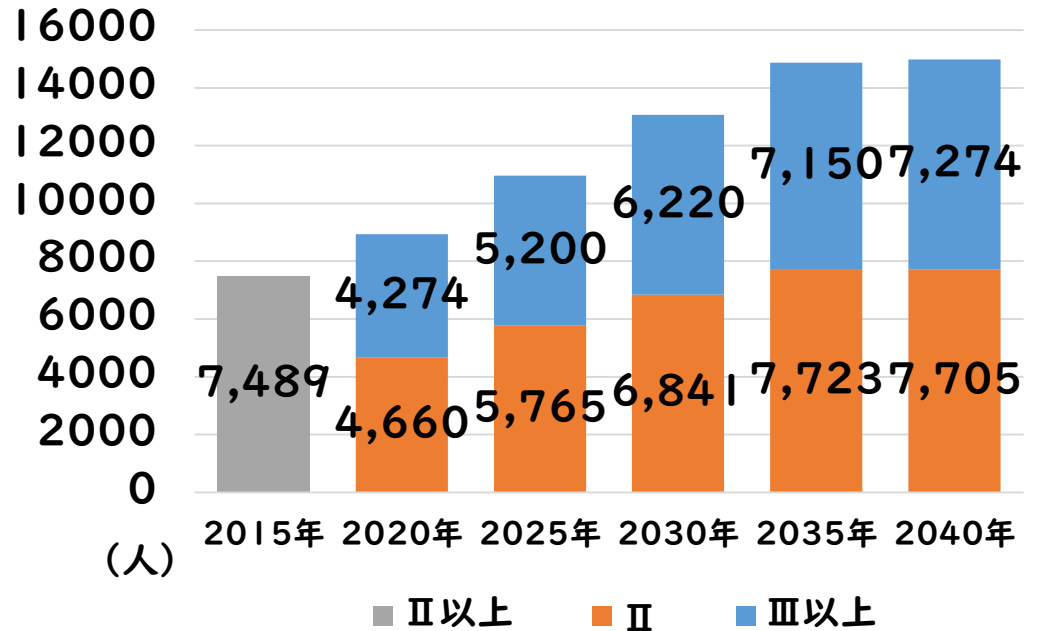
データから見た柏市の状況① 日常生活圏域データより

ひとり暮らし高齢者世帯数と割合(高齢者世帯のうち)



高齢者世帯のうち、ひとり暮らし高齢者世帯は、**約半数**をしめており、また、毎年**約1000世帯ずつ増加**している。

認知症高齢者数の推移と見込み

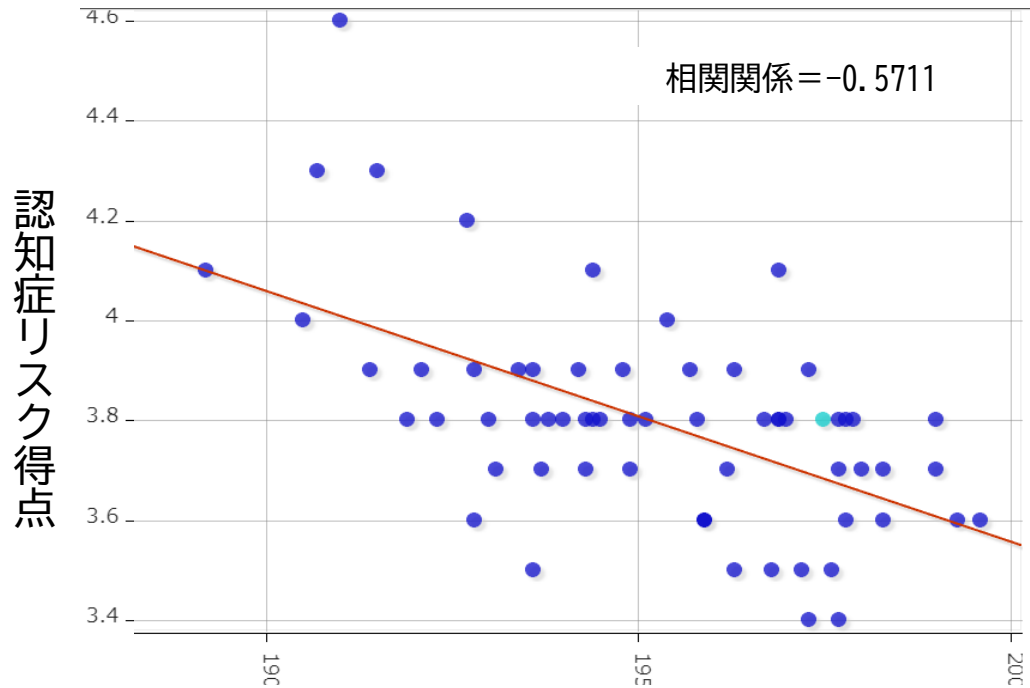


日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難が出現する、認知症自立度II a以上の高齢者は、2015年と比べ2025年には約1.5倍、2040年には約2.0倍に増加する見込みです。



見守りが必要なかたの増加により、体制構築が必要

データから見た柏市の状況② 健康とくらしの調査(JAGESデータ)より



助け合いのソーシャル・キャピタル得点
(心配事や愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人等がいる)

認知症リスク得点が高いほど、他者との関わりが少ない傾向がみられる

項目	柏市順位
1か月間に友人・知人1人以上と会う者の割合	48位
非公式の社会化&社会参加がある者の割合	46位
老人クラブに参加している割合	41位
定期的に声かけ・訪問してくれる人がいる割合	35位

他市と比較して、柏市は、他者との関わりの頻度が少ない傾向がある。



地域での他者との関わりやつながりが必要

見守り体制に関する解決策① 個別会議から

- 家族へ同意を得て、近隣住民に見守り協力を依頼し、住民が集まるサロン等へ参加する
- オレンジフレンズ(※)と協力し、自宅への訪問やお話相手のマッチング、同行散歩等の支援ができるようにする
- 本人を知る同じマンション内の住民から民生委員等を通して、何か気づいた際には、地域包括支援センターへ連絡していただけるよう伝える
- ケアマネジャーから民生委員に対し、情報提供を行い、ゴミ出し等への声かけを通し、見守り強化につなげる
- 地域包括支援センターや関係者から親族に対し、こまめに連絡し働きかけていく

※ オレンジフレンズとは、認知症サポーターでさらに認知症の支援のために、地域での普及啓発や見守り等のボランティア活動を行うことを希望し、地域包括支援センターに登録した市民のこと。

見守り体制に関する解決策② 推進圏域会議から(柏南部地域包括支援センター)

会議目的

- ・地域住民と認知症ケアに関わる関係者の情報と意識の共有を図る
- ・認知症当事者の早期発見・早期対応につながる仕組みや困りごと等を気軽に相談し合える地域をつくる

検討課題

地域における認知症当事者やその家族に対する見守りや声かけが不足している

【検討した理由】

- ・柏南部地域(南部・藤心)においては、市内他地域に比較して、認知症相談が現に多くなっている。
- ・平成30年度以降、認知症に関する新規相談の実数が年間100件を超えている。
- ・相談種別の割合からみても、南逆井ならびに逆井丁番なしを除くすべての地域で認知症関連が最も多い。
- ・認知症相談のほかに、認知症患者数や警察による行方不明高齢者の保護件数も増えている。

参加者からの意見

- ・ケアマネジャー
- ・社会福祉協議会
- ・民生委員
- ・ふるさと協議会
- ・支えあい団体・NPO・ボランティア団体等
- ・支えあい推進員
- ・オレンジフレンズ

小中学校下校時の地域の防犯パトロールと協働し、認知症に関する見守り活動を実施する。

- ・ふるさと協議会会長と防犯パトロールを視察する。
- ・センター内で見守り活動開始に向けたプロジェクトチームを立ち上げる。

地域での認知症の普及啓発促進のため、オレンジフレンズに認知症に関する伝達活動を実施する。

- ・地域への認知症に関する伝達活動方法を検討する。
- ・オレンジフレンズに対する認知症の研修プログラムを立案する。

その後の経過

小中学校下校時の地域の防犯パトロールと協働し、認知症に関する見守り活動を実施する。

- ・各小圏域ごとにパトロールコースを設定。
- ・令和3年10月1日より毎月1日オレンジフレンズと包括職員でパトウォーク開始。

地域での認知症の普及啓発促進のため、オレンジフレンズに認知症に関する伝達活動を実施する。

- ・オレンジフレンズ交流会起点に知識等を共有、カフェやパトウォークを主体的に行う。実践活動を通して学びを深めスキルを高める。
- ・認知症サポーター講座を地域で実施し、地域住民の認知症に関する理解度を深める。



【今後の展開】

各活動を通じて把握した地域の要援護者(見守り対象者)情報をセンターで一元管理し、定期的に追っていくシステム(なんぶキツナ事業【仮称】)の実施を検討中。

活動名 オレンジ散歩(柏の葉・柏ビレジ)

目的

- ・ 認知症のかたの居場所となり, 地域のかた(オレンジフレンズ)との関わりが増える。
- ・ 認知症のかたと自然と触れ合え, オレンジフレンズにとって, 学びの機会となる。
- ・ 認知症のかたやご家族が散歩を楽しめる。
- ・ 家族にとって, 相談や情報交換の場となる。

内容

認知症のかたやその家族や地域のかたと, オレンジフレンズと一緒に1時間くらいかけてゆっくりと散歩をする。オレンジフレンズは毎回10名程度の参加のなかでリーダーを決め自主的にコース案内をする。

実績

(R3.9月末現在)



「ほくほくちゃん」

年度	活動頻度	活動回数
平成29年度	月1回	6回
平成30年度	月1回	6回
令和元年度	月2回	16回
令和2年度	月2回	8回
令和3年度	月2回	8回

コロナ禍のため
中止日あり

※令和3年度より柏ビレジも新たに開始

見守り体制に関する解決策③ その他見守り支援(柏北部地域包括支援センター)



地域課題

- ひとり暮らしの認知症のかたをはじめとして, 見守りが必要なかたの増加
- 地域における見守り体制が不十分

解決に向けた方向性

- オレンジフレンズによる声かけや散歩などを通じた地域とのつながり
- 地域のパトロール等を活用したはいかいのかたへの目配り

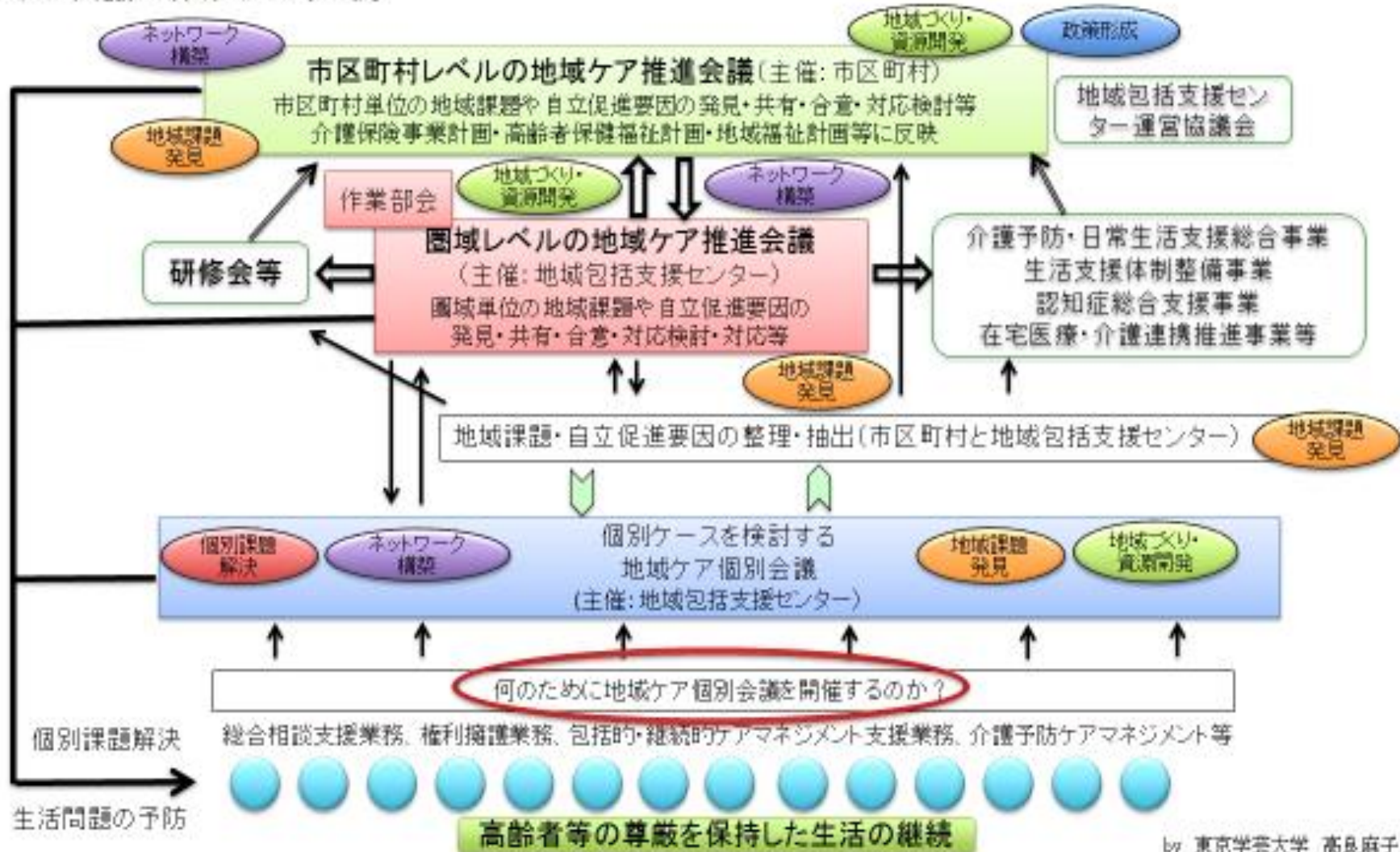
(3) ご助言をいただきたい事項

- 地域で把握している見守りが必要なかたの実情と課題
- それぞれの立場から、ひとり暮らし高齢者や認知症のかたの見守りへの提案
- その他 地域課題やその解決策について

【介護保険法第115条の48(会議)】

実施主体	市, 地域包括支援センター
目的	①支援が必要な被保険者への適切な支援の充実を図る ②地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制の検討
検討事項	①高齢者等の健康上及び生活上の課題の解決に資する支援の内容に関すること ②地域における介護の提供に携わる人や関係者の連携強化に関すること ③支援対象高齢者等に共通する課題の把握に関すること ④地域における介護の提供に必要な社会資源の改善および開発に関すること ⑤地域における自立した日常生活の支援のために必要な施策および事業に関すること
構成	・介護支援専門員, 保健医療及び福祉に関する専門家, 民生委員その他の関係者, 関係機関及び関係団体等

地域ケア会議の体系デザイン例



地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、**地域包括ケアシステムの実現に向けた手法**であり、**会議を連動させることで、地域包括ケアシステムの循環を創ることが**できる。